

平成 30 年 6 月 25 日

南 の 風 2 7 5

南部ミニバスケットボール連盟

会 長 藤原 敬一

6月8日（金）に立川立飛アリーナで、女子日本代表アカツキファイブVSチャイニーズ・タイペイの強化ゲームが行われました。

今年度は、スペインで9月22日～30日まで、FIBA女子ワールドカップが開催されます。優勝チームは、2020年の東京オリンピックの出場権が獲得できます。

女子日本代表は、2016年のリオオリンピックでベスト8、またFIBA女子アジアカップ3連覇という成績もあり、さらに開催国のため東京オリンピックは、ほぼ出場可能です。

実は、今年の女子日本代表は、2チーム構成になっているのです。

FIBAワールドカップ出場チームと、8月18日～9月2日に開催される第18回アジア競技大会（FIBAアジアカップとは別の大会）出場チームに分けてあります。理由は、世界とアジアでは戦い方の違いがあるため、2年後の東京オリンピックを見据えてのものです。

さてもう一つ残念な情報なのですが、長年女子日本代表の司令塔として活躍していた、吉田 亜沙美選手が代表から外れました。理由はコンディションが上がらないためとのことでした。

それでは強化試合の内容に入ります。（渡嘉敷 来夢選手は体調不良のため出場しませんでした）

結果です。96対66でFIBAランキング13位の日本代表が、40位のチャイニーズ・タイペイに勝利しました。

オフェンスです。まず目を見張ったのが、日本代表の3Pシュートの多さです。3Pは、15/38。2Pは、17/32でした。

3Pの試投数が2Pを上回りました。3Pの決定率39.5%、2Pは53.1%でした。

この数字だけ見ても、女子日本代表が目指している方向がはっきり分かります。ガード、フォワードはもちろんのこと、180cm以上の選手の3Pの確率を上げることを目指しています。トム・ホーバスヘッドコーチは、『ストレッチ4』を求めています。特に、宮澤 夕貴選手は南の風でも取り上げましたが、リオ五輪の後、3Pを含めたアウトサイドのシュートに大ブレイクしました。今回の強化試合でも3Pを積極的に打っていました。今回は出場時間の関係で、1/5でした。この試合の得点王は19点（3P、5/6を含む）を上げた、馬瓜 エプリン選手でした。

そして、当然なのですが二人とも片手で打っています。宮澤選手は右耳のあたりにセットします。エプリン選手は、手のひらにピタッとボールを付けて打っていました。それぞれ個性的なのですが、自分のフォームが固まっているように感じました。相当打ち込んでいる様子が窺えました。

世界と伍していくためには、3Pの精度を上げることは必須です。アウトサイドのできるPF（4番）をどんどん育てようとしている、女子日本代表の考え方が垣間見えました。そして選手もたいへん前向きに取り組んでいました。赤穂姉妹も、オコエ選手も積極的に3Pを打っていました。また聞くとところによると、渡嘉敷選手も3Pの猛練習に励んでいるようです。また、今回スタートの5人、町田、水島長岡、高田、宮澤選手は、全員3Pが打てます。

続きは次号にします。

